

第2回東海市公の施設の指定管理者選定委員会会議録

日 時 令和7年（2025年）8月20日（水）

午前9時30分から午前11時まで

会 場 庁舎603会議室

出席者 委員：鈴木健司委員長、加藤知子職務代理、松田剛委員、渡邊和夫委員

こども課：永井こども課長、堤統括主任

高齢者支援課：池田高齢者支援課長、伊藤統括主任、松澤主任

市民協働課：仙敷市民協働課長、長内統括主任

事務局：成田企画部長、中島企画政策課長、名和統括主任、蟹江主任

欠席者 委員：鈴木順子委員

公開の可否 公開

傍聴者 なし

（内容）

1 開 会

2 令和6年度（2024年度）施設の管理運営状況の評価について

（1）担当課等説明及び審議

① 東海市立養父児童館・東海市立養父健康交流の家（こども課、高齢者支援課）

② 東海市立千鳥健康交流の家（高齢者支援課）

③ 東海市立大池健康交流の家（高齢者支援課）

④ 東海市立緑陽コミュニティセンター（市民協働課）

3 今後の予定について

4 選定施設の現地確認

東海市立緑陽コミュニティセンター

5 閉 会

主な質疑は以下のとおり

2 令和6年度（2024年度）施設の管理運営状況の評価について

① 東海市立養父児童館・東海市立養父健康交流の家（こども課、高齢者支援課）

職務代理：

1 ページ「Ⅱサービスの質の評価」、指定管理者の自己評価の欄に記載されているカフェアンケート資料が添付されていない。

担当課：

後日お示しする。アンケート資料には駐輪場希望者が多かった旨の記載があった。

職務代理：

8 ページ「実施状況一覧表」をみると、修繕実施の形跡がない。1 ページ「修繕業務」はBではなく「－」とすべきではないか。

担当課：

日常的な修繕は職員やスタッフが行っているためB評価とした。

委員長：

1 ページ「履行確認」、指定管理者の自己評価コメントにおいて、児童館では幼児保護者の仕事復帰が早まっている状況から事業開催数が計画値を下回っているとあるが、これは分析として逆ではないか。

担当課：

未就学児向けイベントの参加者が集まりにくく、回数が減少した。表現がわかりにくいため修正する。

渡邊委員：

市全体の傾向として、公共施設の管理運営の後継者不足についてはどのような状況か。

担当課：

他の施設でも課題となっている。地元地域で後継者を探していただく形でお願いしている状況であり、この状況が続くことには強い危機感を抱いている。市としては、指定管理のあり方も含め、検討していく必要がある。

渡邊委員：

関係者も集めて協議すべきである。

委員長：

地元団体も人材不足で厳しい状況と推察するが、民間委託の要望はあるか。

担当課：

自治会・町内会は地域拠点としての意識を強くもっており、運営を民間に任せるのではなく、地元で担っていきたいという思いがある。

松田委員：

5 ページ「利用満足度」について、向上しており良い傾向である。このアンケート調査の標本数（N数）はいくつか。また、児童館の満足度として、保護者の意見と区別して子どもの意見が反映されているか。

担当課：

アンケートは小学生以上と未就学児（保護者が回答）54人、小学生以上は49人が回答しており、子ども自身の意見も反映されている。

委員長：

現在の資料に回答者数が追記されるとよい。

[審査結果]

総合評価：B

② 東海市立千鳥健康交流の家（高齢者支援課）

職務代理：

7 ページにおける、職員研修の実施状況（先行事例研修は未実施、施設管理研修は計画1回に対し3回実施）をふまえ、1 ページ「I 履行の確認」の「職員研修」はA評価になっているという理解でよい。

担当課：

そうである。

職務代理：

地域ボランティア活動促進事業は実施していないのであれば、他の項目の記載

と合わせて未実施と記載した方がよい。

委員長：

地域ボランティア活動促進事業について、6 ページでは年 3 回実施しているようだが、7 ページをみると実施されていないように見える。

担当課：

施設管理研修と同時実施のため、7 ページの施設管理研修と同様に、4 月、6 月、12 月の 3 回実施している。

松田委員：

1 ページ「I 履行の確認」、利用者に関する業務について、前年度の D 評価から B 評価に改善した要因は。

担当課：

令和 5 年度は人員不足による 2 日間の休館があったが、令和 6 年度は解消されたためである。

委員長：

3 ページの開館日数をみると、令和 5 年度は 358 日で、十分開館しているといえる。

職務代理：

2 ページの成果・課題等、指定管理者の課題のコメントに句読点の誤字が見られる。

また、5 ページの利用満足度のコメント欄に「少人数」とあるが、標本数を追記してもらえるのか。

委員長：

今後は全てのアンケート資料に回答者数を記載するようにしてほしい。

[審査結果]

総合評価：B

③ 東海市立大池健康交流の家（高齢者支援課）

職務代理：

1 ページ「履行の確認」の修繕業務は「一」となっているが、「指定管理者の自己評価」では「修繕項目も多発する中、…」とある。8 ページの修繕項目も実施した記載がなく、それぞれ表記を統一したほうがよい。

担当課：

3 ページに記載されている掃除機の購入費は修繕費ではなく消耗品費である。

「修繕項目も多発」とは、修繕に関する意見や要望が多かったという意図である。

職務代理：

6 ページのアンケートコメントに「105 名からの聞き取り（アンケート）」とあるが、どうやって得られたのか。

担当課：

館長が日々の業務のなかで利用者に声かけし、ヒアリングを実施した。

先ほど質問もあった担い手不足について、この大池交流の家の施設は特に職員の平均年齢が80 歳近くと高くなっており、大きな課題として捉えている。

渡邊委員：

個人的には運営がうまくいっていると感じていたので、そのような課題があったことに驚いている。役員、指定管理者を含め、担い手不足については行政としても積極的に働きかけてほしい。

委員長：

2 ページ「指定管理者の自己評価」で、光熱費や電話使用料の上昇について触れている。光熱費は昨今の猛暑ではどうしようもない。電話使用料は、フレッツ光への変更によるもので、インターネット環境整備のためであり、無駄にお金を使ったわけではないので、必ずしも悪いことではない。

[審査結果]

総合評価：B

④ 東海市立緑陽コミュニティセンター（市民協働課）

職務代理：

7 ページ「実施状況一覧」をみると修繕の項目では「本年度はなし」としているが、1 ページ「履行の確認」の修繕業務ではBとなっている。

担当課：

リスク分担上市が負担した修繕が1 件あったため、そのような評価とした。

職務代理：

「アンケートは利用者の10%以上の回答が必要」という基準はほかの施設にも共通か。

事務局：

基準の捉え方は施設の性質等によって異なる場合もあるため、共通基準として明確にしているわけではない。

委員長：

修繕項目のB表記については、他の施設と統一した評価基準にしたほうがよい。

担当課：

事務局と調整する。

委員長：

2 ページの経営状況分析指標について、Cとした理由は。

担当課：

自主事業を充実させており、合わせてスタッフの増員はできたものの、自主財源不足により人件費の工面に難航した。指定管理者側がこのことを重く捉えた結果である。

委員長：

経営状況分析指標は数値を率直に評価すべき項目であり、そのような事情を反映させる必要はないのではないか。

事務局：

指摘のとおり数値で評価する項目であるため、C評価ではなくB評価が適切と考える。委員長の意見を踏まえ調整する。

委員長：

4 ページ「経営状況分析指標」の事業収支の計画A、924円は正しい数字か。

担当課：

収入と支出の差し引きであるため正しい。結果としては61万6372円の黒字となった。

職務代理：

6ページの職員研修の施設管理研修は黒丸がついていないが未実施だったのか。

担当課：

確認する。

渡邊委員：

千鳥健康交流の家の説明の中で、利用者が緑陽コミュニティセンターに流出したという話があった。両施設のバランスが崩れないよう、連携をとりながら運営できるように市としても助言をしてほしい。

[審査結果]

総合評価：B